

こゝろたの文化財

新たに町の指定文化財になりましたので紹介します。

扁額 六栗学校

〈指定番号37 書蹟〉

この額装の書は、豊坂小学校の前身である六栗学校に掲げられていたものです。明治5年、学制の発布にあわせて志賀喜代三郎が開校した六栗郷学校は、明治9年に六栗学校に改名しました。この額は、学問の重要性を熟知していた志賀喜代三郎や関係者達が、学ぶ学生たちの誇りとなるものが必要と考えて、明治19年〜20年頃に山岡鉄舟に依頼して書いてもらったものです。



一般公開

とき 6月20日⑩ 午前9時〜正午

ところ 六栗公民館（六栗字本郷5-1-1）

そのほか 事前の申し込みは必要ありませんので時間内に会場にお越しください。
問合せ 生涯学習課生涯学習グループ ☎(0564)62-1111（中央公民館内、内線195） FAX(0564)63-1657 月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日が休館）

深溝神社本殿附棟札5枚

〈指定番号38 建造物〉

江戸時代前半（17世紀前半）に、深溝松平家5代松平忠利によって建てられた幸田町における有数の歴史的建造物です。幸田町の建造物のなかでは、古い時代に位置づけられる建物であり、現在まで、造営当時の状態をほとんど保っているうえ、建てられた当時の棟札や、その後の修理の棟札がすべて揃っています。史跡島原藩主深溝松平家墓所と関連する、深溝松平家ゆかりの貴重な文化財です。一般公開はしていませんが毎月1日と15日は拝殿が開かれていますので外から本殿を見学することができます。



ところ 深溝神社（深溝字一之宮7）

わんぱくだよ

某月某日

幸田保育園

「世界で一つの宝物」

少しずつ春の足音が近づいて来た頃…年長児が白い布をつまんで、クルクルと輪ゴムで縛っていました。一点を見つめ、指を一生懸命使いながら「先生、これ結構難しいよ」「私はお花の模様にするんだ！」と自分がこれだいい、と思うところまで縛っていきます。



それが終わると、次は染めの作業です。染色液は「いちご・みかん・玉ねぎ・ヨモギ」と、身近にある植物を煮出しその中に漬け込んでいきます。子どもたちはどんな色に染め上がるのか、ドキドキわくわく

しながら時を待ちます。頃合いを見て、輪ゴムを外し乾かして完成です。縛ったところは白く模様として浮き出て、全体は植物の淡い優しい色に染め上がりました。「僕の玉ねぎは、すてきな夕焼け色だよ」、布に顔をうずめながら「先生、いちごのいい匂いするよ」と、どの子も世界でたった一つの巾着袋に満面の笑みです。

この中に、保育園の思い出を描いたコマと、三つ編みに編んだ縄跳びをしまい、卒園していきました。

